



北海道大学 × SDGs



北海道大学低温科学研究所
環オホーツク観測研究センター

2024 年度低温科学研究所共同研究集会

縁辺海を繋ぐ物質循環研究にむけて

コンビナー：乙坂重嘉・近藤能子・小畑 元・張 勁・西岡 純

趣旨

西部北太平洋を含む日本周辺海域は生物生産が高く、世界でも有数の水産資源が豊富な海である。この豊かな恵みを生み出している背景には、日本海、オホーツク海、東シナ海などの縁辺海と、それらを繋ぐ黒潮・親潮の海流が関わる海洋循環と栄養物質の循環が密接に関わっていると考えられる。しかし縁辺海を繋ぐ物質循環については、観測からの定量的な裏付けに乏しい状況であり、日本周辺を繋ぐ視点をもった縁辺海と日本周辺の海流系で最新の精密な化学分析技術を用いた観測計画を立案する。

プログラム

日時：2024 年 5 月 24 日（金）9:00–17:30

場所：低温科学研究所講堂＋オンライン

◆はじめに

9:00–9:10 趣旨説明 乙坂重嘉・西岡 純

座長：高野

9:10–9:30 千手智晴

「温暖化は日本海の海洋構造と深層循環にどのような影響を及ぼしつつあるのか？」

9:30–9:50 和川 拓

「遠く離れた日本海沖合域への沿岸水の流出過程」

9:50–10:10 川口悠介

「日本海対馬前線周辺で観測される風成内部重力波の特性」

10:10–10:30 休息

10:30–10:50 下仲雄大（児玉武稔代理）

座長：多田

「日本海の粒状有機物沈降フラックスに対する漂流生態系の寄与」

10:50–11:10 鈴木光次・田之上夕姫・Pat Wongpan・Peter Stratton・深井悠里・豊田威信・西岡純

「南部オホーツク海域における一次生産過程の評価」

11:10–11:30 荒巻 能史

「化学トレーサーによる日本海深層循環への温暖化影響の把握」

11:30–11:50 小畑 元、則末 和宏

「日本周辺縁辺海における微量金属元素とその同位体の生物地球化学」

11:50-13:10 昼休み 〈日本学術会議 SCOR 分科会 GEOTRCES 小委員会 (第 26 期・第 1 回)〉

13:10-13:30 高野祥太郎

座長：漢那

「粒子態微量金属元素動態」

13:30-13:50 山下洋平・小川浩史

「溶存有機物」

13:50-14:10 多田雄哉・丸本幸治・武内 章記

「縁辺海における溶存及び粒子中形態別水銀の分布と制御要因に関する研究」

14:10-14:30 堀川恵司

「堆積物」

14:30-14:50 栗栖美菜子

「大気エアロゾル」

14:50-15:10 休息

座長：田中

15:10-15:30 近藤能子・張 勁・田中雄大・遠藤 貴洋

「東シナ海」

15:30-15:50 乙坂重嘉・長尾誠也・田副博文

「日本海」

15:50-16:10 西岡純・安田一郎・平譚 享・野口真希・黒田 寛・漢那直也・村山愛子

「オホーツク海」

16:10-17:30 総合討論

座長：コンビナー